



田中小だより

平成30年度

6月号

昭島市立田中小学校 〒196-0014 昭島市田中町三丁目4番地1号 電話：042-543-1511

校長 土屋 正登

たくさんの言葉を知る喜び

副校長 田中 順子

雨の季節が近づきました。「外で思い切り遊べないや…」と子供たちにとっては少々憂鬱な季節の始まりです。大人にとっても、「恵みの雨」とわかっていながら、洗濯物が乾かなかったり、通勤や買い物が大変になったりと、ため息が増えそうです。

雨の多い日本では、人々は雨の恵み、悩みとともに暮らしてきました。そのためでしょうか、日本には雨の呼び名が400語以上もあるのだそうです。例えば、「梅雨（つゆ）」はよく知られた言葉です。6月頃降り続く長雨を指しますが、梅の実が熟するころの雨とも、物に黴（かび）を生じやすい「黴雨（ばいう）」の意ともいわれています。「五月雨（さみだれ）」もこの時期の雨のことです。旧暦の五月の長雨を指しました。梅雨入り前に雨が降り続くことを「走り梅雨」、梅雨明け間際に降る雷を伴う雨を「送り梅雨」といいます。雨が少ない梅雨は「空梅雨（からつゆ）」や「枯れ梅雨（かれつゆ）」などといいます。「梅雨晴れ（つゆばれ）」はうれしいですが、いい塩梅（あんばい）に雨も降ってほしいものです。日照りのあと、天から降り注ぐ恵みの雨を「慈雨（じう）」「甘雨（かんう）」といいます。人々が雨粒一滴一滴をいとおしむ気持ちが伝わります。また、新緑が美しい今の季節に降る雨は「翠雨（すいう）」や「緑雨（りょくう）」ともいうそうです。雨に濡れて輝く青葉が目の前に広がる気がします。

この季節の雨の呼び名をいくつかご紹介しましたが、その多彩な表現には驚かされます。また、名前がわかると、今日の雨はどんな様子かな、などと雨降りも楽しくなってくるから不思議です。言葉をたくさん知っていると、表現の幅が広がり、思考も深まり、自分の意思も正確に相手に伝えることができます。子供たちにはぜひ、新しい言葉を知る喜びをたくさん味わいながら、豊かに成長してほしいと願っています。大人の役目は、子供が言葉を習得するためのより良い環境を作ること、そのために学校やご家庭で何ができるか、共に手を携えて、考えてまいりましょう。

さて、本校では来る6月7日より、今年度第一回目の読書旬間が始まります。子供たちは皆、読書の時間が大好き、図書室が大好きですから、読書旬間も楽しみにしています。アウトドアが難しいこの季節、お子様と一緒にご家庭で読書三昧はいかがでしょう。ご家族それぞれが、好きな本を読んで感想を話し合う、またはお子様の本と一緒に読んでみるなど、楽しみ方はいろいろありそうです。読み聞かせは、かなり大きなお子様でも喜びますので、ぜひお試しください。ご家族の新しい一面が見えてきたり、お子様のしっかりした考え方に成長を感じたりと、発見もありそうです。もちろんご家庭での読書の習慣が、語彙力アップに大いに役立つことは、いうまでもありません。